

上田市わがまち魅力アップ応援事業

平成 21 年度事業実績報告会（丸子地域）

平成 22 年 3 月 19 日（金）午後 1 時 30 分から 丸子文化会館小ホール

- 各団体からの報告
- ディスカッション

上田市では、自治会や市民活動団体の皆さんが、地域の課題の解決や活性化のために、自主的・主体的に取り組む地域づくり活動に対し、補助制度を整備し応援しています。

丸子地域では、今年度 18 の事業提案について丸子地域協議会の選考協議を経て補助金を交付し、事業が実施されました。

事業の成果や効果を発表し、お互いに検証するとともに、市民に対しても広く周知し地域づくりの気運を高めるため実績報告会を開催します。

個性あるふるさとづくり応援事業（自治会対象）

・辰ノ口バイパス道路景観整備	・・・・・・・・ 1
・長瀬史跡散策ウォーキングコースの開発	・・・・・・・・ 2
・荻窪ふるさと農道景観整備	・・・・・・・・ 3
・西内・平井地域が育てる西内っこ育成支援活動	・・・・・・・・ 4
・ふるさと景観づくりと健康の里和子	・・・・・・・・ 5
・平井地区 穴沢枝垂れ栗・榎の育成と保存	・・・・・・・・ 6

特色あるまちづくり応援事業（市民団体対象）

・下和子地域の景観整備と生活環境の継承	・・・・・・・・ 7
・霊泉寺温泉未来プロジェクト	・・・・・・・・ 8
・木曾義仲ゆかり史跡整備	・・・・・・・・ 9
・箱山城・桜ロード整備	・・・・・・・・ 10
・お産と子育てに優しい街「うえだ」	・・・・・・・・ 11
・かかし祭りの企画・運営	・・・・・・・・ 12
・郷蔵や古文書群など歴史遺産を生かした飯沼	・・・・・・・・ 13
・丸子バラを育てる	・・・・・・・・ 14
・一本木公園整備	・・・・・・・・ 15
・中丸子ぼたる飛び自然豊かな里山造り	・・・・・・・・ 16
・かあちゃん達が伝えるおらが（内村）の幸せ	・・・・・・・・ 17
・独鈷山千本桜地域おこし	・・・・・・・・ 18



事業名	辰ノ口バイパス道路景観整備事業		
団体名	辰ノ口自治会協議会	代表者	櫻井 誠
事業の目的 及び概要	辰ノ口バイパス道路分離帯に「うるおいのある景観づくり」 しだれ花桃の植栽。（辰ノ口バイパス花桃街道）		
事業内容	辰ノ口バイパス入口（内村橋側）に花壇づくり。出口（辰ノ口上）の空地に客土、花桃、サルスベリ、花苗植栽。バイパス道路側面にしだれ花桃を植栽。		
活動内容	4月・サルスベリ花桃の苗木の植栽。6月・しだれ花桃の苗木の植栽と花壇に花苗植栽。11月・花壇の整理、および水仙、チューリップの球根植え付け。 6月、9月バイパス道路側面の草刈・及び除草剤の散布。毎月カン、ビン、ゴミ拾いの実施。		
		総事業費	436,800円
		補助額	369,000円
		原材料費	搬入土、苗木他
		消耗品費	除草剤
		使用料	機械借上料
		燃料費	草刈燃料費
自己評価 （A. B. C）の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	バイパス道路入口（内村橋側）花壇、信号待ちの僅かな時間であるが、眼の保養になる。清流の里内村へ入るひと時のうるおいがある。また出口（辰ノ口上）には植栽した苗木が将来的にうるおいの場となる。バイパス道路側面に植栽したしだれ花桃の開花が楽しめる。		
評価すべき点	バイパス道路の草刈による美化。更に除草剤の散布でより効果があった。		
課題	しだれ花桃の苗木植栽に際し、植え付けの不備により、一部枯れたことが悔やまれる。		

事業名	史跡散策ウォーキングコースの開発		
団体名	長瀬地区自治会連合会・丸子史料研究会	代表者	阿原 孝之
事業の目的 及び概要	地区内には多くの史跡が点在している。 郷土の資料としてまとめ、歴史散策という付加価値を高めていく。		
事業内容	・ 5 km コース看板設置（13本） ・ 9 km コース看板製作（24本） ・ ウォーキングマップのレイアウト		
活動内容	・ 長瀬地区協議会で9 kmコース、ウォーキングマップを検討（21年2、4、6、8、10、12月）6回 ・ 5 kmコース看板設置（4月 5月 6月） ・ 9 kmコース現地調査 7月		
		総事業費	220,050 円
		補助額	104,000 円
		原材料費	杭
		消耗品費	事務用品
		使用料	軽トラ賃借料
		委託料	看板作成費
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	5 kmの看板を設置後、関心が高まりウォーキングコースとして利用されている。また、9 kmコースの早期設置、ウォーキングマップ作成の要望があった		
評価すべき点	長瀬地区協議会（年6回）で基本事項を検討して事業実施しているため、ゆっくりであるが前進している。5 kmコースの看板を設置後事業に対する関心も高まってきている。		
課題	なし。		

事業名	ふるさと農道景観整備事業		
団体名	荻窪自治会ふるさと農道桜の会	代表者	小林 重義
事業の目的 及び概要	ふるさと農道及び虚空蔵堂（重要文化財）周辺の景観及び交流場所の整備を通じ、住民が地域の歴史や自然の豊かさを再認識し、地域への愛着と、世代を超えた交流を通じ地域住民の一体感を深め「魅力ある地域づくり」を目指します。		
事業内容	・植栽予定地の刈払、整地作業。 ・植栽作業。 ・植栽物の育成管理（草刈、除草、施肥、食害防止、病虫害防除）		
活動内容	10月・刈払、整地作業16名。11月・植栽作業23名。1月・忌避剤塗布、刈払残材片付け。通年・育成管理（草刈、施肥、病虫害防除）		
		総事業費	240,993円
		補助額	226,000円
		原材料費	苗木代
		消耗品費	支柱、堆肥等
		使用料	機械使用料
		燃料費	機械燃料費
		委託費	オペレーター
自己評価 (A. B. C)の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	A
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	本年度予定した農道沿いの刈払整備植栽は完了した。(約220m) 植栽作業における交流には昨年とは豊かな層の参加者が有り、広い年齢層の住民の交流が出来た。		
評価すべき点	ウォーキングで農道を使っている人の中には、自主的に空き缶やゴミを拾ってくれる人もあり、地域への愛着が芽生えているように思える。		
課題	道路沿いの藪等の刈払等による景観の改善効果は有ったが、植栽物が小苗の為、ツタの繁茂、桜の開発には年数が必要で、開花時のイベントによる住民の交流等は出来ないでいる。 広場は雑草の伸びが速く、草刈りが後手に困った時期が有った。		

事業名	地域が育てる西内っこ育成支援活動で住民をつなぐ、福祉・温泉の里山、西内地区		
団体名	西内自治会・平井自治会	代表者	斉藤 耕三
事業の目的 及び概要	西内小学校は少子化の影響は避けられず、数年後には小学校存続も危ぶまれる状況である。西内地区には温泉・福祉施設・病院等恵まれた活用資源があり、これらとの連携の中で定住人口を増やし事業を行い活動することにより地域の連携を深め、地域を活性化させていく。		
事業内容	・地域の良さを県内、全国へ発信させるためホームページを作成、更新した。 ・地域クラブとの事業を計画し、地域住民との交流を進めた。おやき作り、そば打ち、簡単にできる料理講習会など。 ・子を持つ親たちの交流会の開催。 ・小学校制度改革の研究。伊那市新村小学校を見学。特認校として活動している学校の見学、学校長と面談を通して現状をみた。 ・小学校と地域の活動発表・展示会開催。一般来訪者約 150 名。		
活動内容			
		総事業費	443,898 円
		補助額	430,000 円
		原材料費	楽譜
		消耗品費	展示会用品
		使用料	講師代
		使用料	HP サーバー使用
		印刷製本	展示会用ポスター
		通信費	案内切手代等
		委託費	ホームページ作成
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	ホームページ作成 2 年目。ホームページを通じて西内地域の良さを発信できた。 特認校指定の伊那市新山小学校を見学。小学校長との懇談を通じて、特認校の制度のあり方について考えさせられたと思う。 地域活動展示会を通じ地域の活動を広く紹介できた。見学人員約 250 名。		
評価すべき点	地域展示会が好評で、小学校の先生方、西内小学校やきものクラブ、保護者の協力で運営されていることも高く評価されて良い点だと思う。今後も活動継続していきたい。		
課題	小学校児童減少はその限度を知らず確実に迫っている現実に対して、地域を憂える声は聞こえても、その具体的対策は何一つできていないのが現実である、もちろん問題の大きさからすぐに答えが出ないのはわかっている。しかし、この点の研究も進め、今後どのように活性化していくかが課題となる。		

事業名	ふるさと景観づくりと健康の里和子自治会		
団体名	和子自治会	代表者	西野入 廣司
事業の目的 及び概要	内村川左岸山林裾野に、地域を一望する位置に全長500mの里山道路（遊歩道）を、地域住民参加により整備することで、地域コミュニティの醸成とウォーキングによる、健康増進に寄与すると共に、里山道路法面に花木を植栽し景観形成を進め、開花時には花見、写生等で地域交流を図る。		
事業内容	・里山道路整備 L=123m W=2.0~2.5m ・支障木の伐採 L= 50m B=5.0m ・支障竹の伐採 L= 70m B=3.0 ・草刈り L=300m W=5.0m		
活動内容	6月・道路の草刈り及び敷砂利作業18人。7月・道路草刈り14人。10月・役員会議10人。11月・道路路盤づくり及び道路法面の支障木伐採作業18人。12月・道路敷砂利作業及び道路に支障となる竹の伐採撤去作業21人。1月・役員会議10人、道路に支障となる竹の伐採撤去作業15人。		
	総事業費	173,008円	
	補助額	173,000円	
	原材料費	砕石ほか	
	消耗品費	除草剤	
	謝金	運転技師謝金	
	使用料	重機、トラック	
	燃料費	混合ガソリン	
自己評価 (A. B. C)の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	事業を進めるなかで、日頃は顔も合わせない20代の若者から70代高齢者まで、何回かの作業に参加していただき、作業を行う中で仕事の話しや子育て、介護の話等が出来、地域コミュニティの醸成が図られた。また道路が整備されると早速ウォーキングされる方が現れ健康の増進にも寄与されてきている。		
評価すべき点	21年度事業で5回の作業を実施する中で、作業参加者は14人から多いときで21人の方に参加いただき、延べ86人に達した。この事業に対する自治会住民の理解度は徐々に浸透してきている。		
課題	道路法面の草刈や道路の草刈りの1回は、自治会の賦役作業の一環として実施するよう検討したい。		

事業名	平井地区 穴沢枝垂栗 枝垂榎保存		
団体名	平井自治会	代表者	小平 明
事業の目的 及び概要	国の天然記念物指定「枝垂栗」「枝垂榎」の育成と保存。		
事業内容	大正 9 年 7 月 17 日付け官報により、国の天然記念物に指定されている「枝垂栗自生地」、「枝垂榎」は、歴史の経過により指定物は朽ち果てているが、自生地の再起を図り指定物の保存と生成をし、又見学が安易に出来るよう国道沿いにミニパークもつくり、地域の活性化と合わせ平井地区の歴史を未来永劫に伝える地域事業とする。		
活動内容	[自生地]国道より約 2 kmの山奥にあり道路整備が出来ない場所での大変な作業。雑木の片付け他整地 2 回、育成木 3 本植栽。(鹿害獣の防護柵対策も行う)。 [ミニパーク(国道沿い現マレット場)]枝垂榎(15 年～20 年生)1 本植栽。 枝垂栗(3～4 年生)6 本植栽。これに伴う保護(支柱、敷わら)、消毒、施肥等。 ※枝垂栗 さし木 30 本・活着 1 本、つぎ木 20 本・活着 0 本、実生 60 本 枝垂榎 実生 20 本 (実生両木とも枝垂なし)		
	総事業費	151,227 円	
	補助額	148,000 円	
	消耗品費	作業用消耗品	
	使用料	重機使用、畑賃借	
	燃料費	オイル他	
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	B
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	A
事業の効果	長野県教育委員会による現地指定物の確認承諾を改めて受ける。 さし木、つぎ木と増木は大変難しい。		
評価すべき点	PRしたところ、他地区からの協力者(賛同者)が出てきた。ミニパークについて多数の人々より好評を得た。枝垂栗・榎の歴史を確認でき当時官報の写真は穴沢自治会館に掲示した。		
課題	作業協力者をもう少し、増やしたかった		

事業名		下和子地域の景観整備と生活環境の継承		
団体名		SLOW-LIFE クラブ下和子素浪人の会	代表者	山本 進
事業の目的 及び概要		地域住民相互の連携と融和を図ると共に、かけがえのない郷土の里山を育み、後世へ引き継いでゆく。		
事業内容		・河川、道路脇の植樹と花木の育成。 ・地域公共の場所、河川のゴミゼロ運動の推進。 ・遊休農地の活用（そば、菜の花等の栽培） ・高齢者、児童等との収穫祭。		
活動内容		会員以外の皆様にも協力をしていただき、会の取組みへのご支援により十分活動出来た。河川、道路脇の草刈り、清掃、落葉等の片付けなど、域内の景観整備が定着しつつある。		
		総事業費	516,409 円	
		補助額	395,000 円	
		原材料費	花木苗木代ほか	
		消耗品費	草刈機刃	
		使用料	借地代、機械使用	
		燃料費	草刈機燃料	
		委託費	採掘、加工代	
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある		A
	妥当性	地域に必要とされている。		A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった		A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。		A
	先進性・独創性	他にない先駆的な取組みである。		B
事業の効果		地域行事へ積極的に参加し、会の目的を周知すると共に、自治会役員や高齢者との年代ギャップを感じないよう、コミュニケーションを良くしたことで、特に高齢者の協力が得られた。植樹後の育成（手をかける）状況次第で、将来更に景観が良くなり、成果があらわれる。		
評価すべき点		地域のふれあいの会やなごみの会を通して、少しずつではあるが高齢者との心の通いが叶い、相互連帯と融和が出来つつある。また、子ども達（児童、小学生、高校生等）との明るい挨拶を通して融和がはかれ、いわゆるスローライフ人生としての緩急自在の生活を楽しんでいる。将来の地域景観（特に花木）が良くなる基礎を築くことが出来た。		
課題		年代的なギャップが大きい若年層の参加が少ない。次世代（50代～40代）の後継者への働きかけ。子ども達が地域、郷土を愛し、和敬の心を大切にして欲しい。		

事業名	霊泉寺温泉未来プロジェクト		
団体名	霊泉寺温泉の活性化を考える会	代表者	清水 達弘
事業の目的 及び概要	霊泉寺温泉の活性化により、地元地域が活気づく。遊歩道の整備、アドバイザーによる現地視察、講演、意見交換。		
事業内容	・月 1 回の意見交換会。 ・遊歩道の整備。 ・温泉街アジサイの手入れ、植栽。 ・遊歩道入口へのあずま屋の設置（徳寿荘からもらったもの）。 ・都市機構アドバイザーによる視察、講演、意見交換（旅館組合と企画） ・石灯籠の設置		
活動内容			
		総事業費	752,970 円
		補助額	750,000 円
		原材料費	あずまや材、苗他
		使用料	重機使用料
		委託料	運搬、加工
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	B
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	昨年 of 長野大学准教授の講演とあわせ、都市機構アドバイザーによるアドバイスも参考に、霊泉寺温泉の活性化についていろいろ考えていける。 また、遊歩道近くに東屋を設置し、まちづくりのきっかけとなる。		
評価すべき点	だいぶ温泉地らしい雰囲気をかもし出しつつあると思う。多くの人たちの意識の変化もみられるようになった。		
課題	計画をできるだけ早めに実行する。会員みんなと情報の共有をはかり、要望を聞く。都市機構のアドバイザーのアドバイスを参考に、地域活性や行政とともに今後も知恵を出し合っていきたい。		

事業名	木曾義仲ゆかり史跡整備		
団体名	木曾義仲信州丸子会	代表者	小林秀男
事業の目的 及び概要	木曾義仲ゆかりの史跡を掘り起こし整備し、大勢の人に知ってもらおう。		
事業内容	- 木曾義仲案内板、看板の設置。 - 木曾義仲のぼり旗の設置。 - 木曾義仲史跡マップ作成。		
活動内容	- 案内板、看板、のぼり旗を設置し、「木曾義仲拳兵の地」を PR。 「義仲の基礎知識と史跡マップ」を 2,000 部作成し配布。 10 月開催の「木曾義仲拳兵武者行列」につなげた。		
		総事業費	246,380 円
		補助額	223,000 円
		消耗品費	のぼり旗
		使用料	史跡マップ
		委託料	案内図、看板
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	A
事業の効果	2 年間の事業により市内地域、他地域の皆さんにも関心を持ってもらえた。		
評価すべき点	2 年間整備事業を行いより関心をもってもらい、さらに木曾義仲拳兵武者行列、史跡ウォーキングに結びつけ、地元はもとより他地域からも参加してもらえた。願わくば、さらに大河ドラマへと思い地域の発展につながると思い、これからも続けたい。		
課題	史跡ゆかり地域との相互連携。		

事業名	箱山城・桜ロード整備事業		
団体名	箱山城・桜ロードの会	代表者	樋村 宣郎
事業の目的 及び概要	緑化による温暖化防止や周辺の環境整備を進める過程で、住民参加による地域の連帯感を深めることにより、青少年育成と地域の活性化を図る。		
事業内容	中丸子地籍～箱置池方面に通じる山道沿いの整備と箱山城への遊歩道整備及び市街展望台の設置。		
活動内容	4 月・修学館建設工学科作業計画説明及び打合わせ。植樹祭、第 1 回修学館生徒作業参加。5 月・枯松伐採作業と片付け。6 月・第 2 回修学館生徒作業参加。第 3 回修学館生徒作業参加。桜ロード草刈り。9 月・修学館生徒参加活動について打合せ。桜ロード草刈り。10 月・木曾義仲拳兵武者行列「のろし」あげ。重機による山道づくり。区民見学会。保育園児受入。11 月・展望台設置作業開始。12 月・小鳥の巣づくり指導。展望台周辺伐採作業。H22 年 1 月・修学館ベンチ等制作作業。2 月・ 展望台設置完了。		
	総事業費	837,523 円	
	補助額	783,000 円	
	原材料費	苗木、東屋、ベンチ等	
	消耗品費	草刈機等の刃	
	使用料	機械使用料等	
	燃料費	機械燃料費	
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	B
	妥当性	地域に必要とされている。	B
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	B
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	・地域住民に少しずつ理解協力の輪が広がってきた（植栽物の提供申入れ）など。 ・修学館生徒の体験学習に協力ができてきた。		
評価すべき点	目標は長期継続事業ですが、2 年間の補助金で活動が進み、地域住民相互のコミュニケーションも活性化された。50 才から 70 才代の異年齢メンバーの交流、特に現役メンバーから将来の居場所づくりができたなど声が上がっている。また、会員・訪れる人、皆気楽に会話の生まれる山上での「井戸端」社会が出来上がってきている。具体例として、「ふれあいの会」などの積極的参加、地域外住民も散歩コースに設定してくれるなど標高 600 メートル地点での「居場所」となりそう。特に修学館生徒の体験学習に活用頂いたことなど喜んでいる。一日も早く子ども達が里山で遊べる身近な場所づくりを急ぎたい。		
課題	①将来設計の難しさ（最終レイアウト）。 ②継続事業推進化予算計画の不安（自主運営費の不足）。 ③市の専門家による協力（市道の安全確保）。		

事業名		お産と子育てにやさしい街「うえだ」		
団体名		お産を考える会 はぐHUG	代表者	中村亜季
事業の目的 及び概要		子どもを産み育てる事が難しくなってる現代社会において、世代を超えて人と人とがつながり共に考え、お産や子育てを地域で支える意識を持ってもらうため、母親目線の新聞を発行し、上田のお産環境や子育てに関する情報を提供した。世代を超えた人たちの場を提供するために、パパママフェスタを企画・開催した。		
事業内容		「うえだでお産しんぶん」3,000部発行。 9月に丸子文化会館で「パパママフェスタ2009IN うえだ」の開催		
活動内容		2008年4月・お産新聞第1号発行。8月・お産新聞2号発行。 11月・パパママフェスタ2008開催。 2009年3月・お産新聞第3号発行。9月・お産新聞第4号発行。 9月・パパママフェスタ2009開催。 ・メーリングリストによる情報の交換随時。		
	総事業費	619,683円		
	補助額	475,000円		
	原材料費	装飾花ほか		
	消耗品費	文具、看板など		
	謝金	講師等謝金		
	使用料	文化会館使用料		
	印刷製本	チラシ作成		
	通信費	切手等発送代		
	保険料	イベント保険		
	委託費	駐車場整理		
自己評価 (A. B. C)の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある		A
	妥当性	地域に必要とされている。		A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった		A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。		B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。		B
事業の効果 評価すべき点		「お産新聞」発行では、メンバーによる手配りととどまらず、市内外のサークルや、商店、企業などにも置いていただき、幅広い世代の方に情報発信することができた。また、「パパママフェスタ」においては、お産、育児に関わる講演会や、食、手作り、リサイクル、ファミリーコンサートなどのブースを設けるなど、世代を超えた人同士の交流の場となるようにした。結果、当日は600名を超える来客者にイベントを楽しんでもらう事ができた。アンケートでも「満足できた」「続けてほしい」という声をいただくことができた。		
課題		イベントのメインで著名人を呼び講演会を開催したが参加人数が少なかった。すばらしい講演であっても、その会場に人を集める事の難しさを感じた。		

事業名	かかし祭りの企画・運営事業				
団体名	丸子地域を活性化する会		代表者	池内 宜訓	
事業の目的 及び概要	丸子地域住民の親睦と交流を図るとともに、ふるさと「丸子」の景観保全と地域の活性化を図ることを目的とする。国道254号沿線などに「案山子」を設置し住民はもとより来訪者に観賞していただく。観賞期間中に出品された「案山子」を審査し表彰する。				
事業内容	案山子づくり講習会を開催し広く案山子の出品を呼びかけ、案山子を展示する。交流センターでは写真を飾り、お客の選んだ案山子コンテストを実施し、案山子まつりのPR及び観光客を誘致する。広く案山子の出品を呼びかけることにより、親と子、老人会PTA等の広域交流を図る。				
活動内容	7月・案山子作り講習会開催、参加者18名。9月・案山子審査会実施17作品、46体の案山子が出品。9月・表彰式、反省会の開催。 案山子の出品は地域住民、個人、グループとし設置期間は8月から10月末日まで。 11月・ホームページ開設 http://www.akeyu.or.jp/event/kakashi/index.htm http://www.akeyu.or.jp/event/kakashi/shokaihtm				
	総事業費	562,750円			
	補助額	445,000円			
	消耗品費	シンボル像消耗品			
	謝金	講師謝金、報酬			
	旅費	審査員費用弁償			
	使用料	会場使用、賃借料			
	通信費	はがき、切手代			
	委託料	ホームページ更新			
自己評価 (A. B. C)の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある			A
	妥当性	地域に必要とされている。			A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった			A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。			C
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。			B
事業の効果	毎回のかかし祭りを見て、人生を楽しんでもらっている人の声が届いている。かかし祭りのことが知れ渡り、他地区からも何体も出品していただけた。又、西内小学校5年生全員で一生懸命つくり出品してくれ、大塩温泉共同浴場入場券をあげたところ全員で入浴し楽しい思い出となりましたと喜んでおりました。				
評価すべき点	来訪者も多くなったと感じている。実施することは大変だが、継続は力なりと感じている。何回も出品されている皆さんは自信がついたこと、初めて作った人は満足感をもたれた事など生きがいをもたらした。				
課題	大賞受賞者がいつも同じ方なので、出しがいが無いとの声あり。一本足の部と芸術の部を分けられないかが今後の課題。 見に来た人たちも出品してみたいという願望はあるがもう一步踏み込めない。				

事業名	郷蔵や古文書群をはじめとする歴史遺産を生かしたふれあいの里飯沼		
団体名	上田飯沼史学会	代表者	奥村 栄邦
事業の目的 及び概要	飯沼地区には、郷蔵や旧家並、古文書群など江戸中期から明治前期にかけての歴史遺産が数多く残る。これらは後世に伝えてゆくべき歴史遺産であるため、地域で学び伝えることで価値を再認識し地域への愛着や一体感を醸成する。		
事業内容	講演会、初心者向け古文書講座の開催。古文書調査。		
活動内容	横濱開港資料館・西川氏の講演会。日本女子大・東京大学・開港資料館による保管書類の調査。初心者向け古文書遺産講座の開催。飯沼地域外からの参加者が大半。地域の文化祭で、飯沼で撮影された「次郎物語」飯沼出身の松田玄仲さんが扱われた「動天」の2本を上映。		
	総事業費	542,353円	
	補助額	542,000円	
	消耗品費	インク、用紙等	
	謝金	講師、調査謝金	
	旅費	調査員旅費	
	印刷製本	コピー代	
	通信費	郵便代	
自己評価 (A. B. C)の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	C
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	A
事業の効果	郷蔵に関しては問題提起（江戸時代の貴重な建物で、このままでは破壊が進んでしまう等）したため、市議会、市教育委員会・各報道機関の調査、取材を受けた。特に「ことぶき大学」大学院生による詳細なレポートがまとめられた。 古文書調査研究により、飯沼地区に残されている新発見資料の発掘・公開（開港資料館での展示・レポートの発表）で、江戸時代末期から明治にかけて飯沼地区がかなり重要な位置にあったのではないかと判断もされてきている。 「初心者向けの古文書講座」は回も29回を数え、毎回40名を前後の参加がある。遠くは松本市や小諸市、市内でも真田、武石、旧上田、東御市からも受講者がある。今まであまり取上げられることもなかった時代・テーマと地元の新発見資料などによる題材がこの講座に興味を持たれた原因ではないか。		
課題	飯沼地域内の史跡等の標識設置を企画したが、現役で勤めているメンバーが多く、作業者の参加も限られいたずらに時がたってしまった。史跡の解説・費用など実施に向けて研究をしてゆきたい。飯沼の歴史・史跡を後世に伝えてゆくには時間があまりないように感じます。		

事業名		丸子バラを育てる事業		
団体名		丸子バラの会	代表者	成澤 啓輔
事業の目的 及び概要		荒廃した河川、堤防敷地を潤い空間に甦えさせる。 周辺地域の環境美化、環境美化の高揚を図る。 住民の親睦と交流を深め、地域を活性化させる。		
事業内容		・バラ植栽地の造成、整備。 ・バラの管理、剪定と消毒。 ・草花の植栽と管理。 ・周辺地域の、アレチウリの除去作業、河川の清掃。		
活動内容		環境美化活動を 20 年前から行っていますが、今回の事業で小学生から高齢者まで、約 170 名の参加者があり大勢の皆様が関心を持って環境美化活動を行うことができました。地域住民の親睦と交流を行う事ができました。		
		総事業費	486,500 円	
		補助額	450,000 円	
		原材料費	土	
		消耗品費	肥料、消毒剤他	
		使用料	機械使用料	
		燃料費	機械燃料費	
		委託費	機械オペレーター	
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある		A
	妥当性	地域に必要とされている。		A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった		A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。		A
	先進性・独創性	他にない先駆的な取組みである。		A
事業の効果		環境美化、温暖化防止が求められている昨今、また市民協働を推進していく上で、当事業は大勢の皆様の参加者により事業を進めることができました。 周辺地域の環境美化、環境美化の高揚、住民の親睦と交流、地域の活性化になりました。広範囲の地区からの参加、大勢の皆様に関心を持っていただき、今後の事業継続の励みになりました。 協賛者の申し込み等もあり、事業継続に問題はありませんが、よりよいバラ園とするため協賛者の募集等も考えています		
評価すべき点		平成 21 年で表土入れ替え整地等大きな整備事業は終了しました。地域住民の親睦と交流を行う事ができ健康維持になりました。		
課題		—		

事業名	一本木公園整備事業		
団体名	一本木公園をつくる会	代表者	堀内 眞澄
事業の目的 及び概要	塩川、長瀬地区の境に位置する通称「一本木塚」は陣場地区のブドウ畑マリコヴィンヤードに隣接し、浅間山、菅平高原等を一望できる景観に恵まれた場所です。春には多くの桜の木を咲かせていますが、未整備で荒廃した状況のため、地域住民の手で整備することで、連帯感を深め、花見などにより地域の交流や活性化を図ることを目的としています。		
事業内容	5月～7月まで月1回草刈り。 12月 木製ベンチ6基設置と雑草木の刈取り。		
活動内容	一本木塚の荒廃を見かね、平成20年12月に会を設立した。同月に主に桜約30本を残し松くい虫による枯木と雑木の伐採を行い整備した。平成21年4月に事業の周知と地域住民との連携を図るため「花見会」を、多くの方の協力により盛大に開催できた（塩川・長瀬地区自治会員約50名参加）。5月から7月には草刈を実施し維持管理を行い、12月木製ベンチ6基を設置した。		
		総事業費	242,500円
		補助額	200,000円
		原材料費	ベンチ材料
		消耗品費	封筒ほか
		使用料	機械使用料
		通信費	切手代
		燃料費	機械燃料費
		保険料	保険
自己評価 (A. B. C)の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	一本木公園整備を通じて長瀬・塩川地区住民の交流が図られ景観が整備された。今後さらに整備が進めば、地域住民の憩いの場としてまた、周辺農地の活性化に発展していくと思われる。		
評価すべき点	地域住民が関心を持って積極的に参加し協力してくれた。公園が整備されると近隣の空地にソバを作るとか荒廃農地をなんとかしようとか景観整備につながる動きがある。この場所が景観に優れていることを改めて認識した。特にここから見る浅間山は市内で一番だと思う。		
課題	この事業が2年で予算100万円限度では中途半端な気がします。（事前に承知はしていましたが、もう少しあれば完成度が高まると思いますので）		

事業名	ほたる飛び自然豊かな里山造り		
団体名	中丸子ほたるの里の会	代表者	温井 郁雄
事業の目的 及び概要	塩川用水（上堰）の水路（通称ホタル水路）及び周辺の整備をする。 景観の美化をはかり、ほたるの発生を目指し地域住民の交流をはかる。		
事業内容	・周辺 松くい木伐採、石・ごみの片付け、整地、植栽（桜・つつじ等）。 ・水路内 客土、石入れ、植栽（柳・アジサイ等） ・ほたる勉強会 2 回。		
活動内容	2 月・会の結成。 4 月・第 1 回ほたる勉強会。（講師：狐塚の中沢氏）、 5 月～10 月・計 5 回周辺整備、植樹等延約 80 人。 9 月・第 2 回ほたる勉強会 5 月～8 月 松くい木伐採作業、石・ごみ片付け整地、客土入れ等。		
	総事業費	555,626 円	
	補助額	350,000 円	
	原材料費	客土、苗木	
	謝金	講師謝金	
	使用料	機械使用料	
	燃料費	機械燃料	
	保険料	傷害保険	
	委託費	伐採、整地	
自己評価 （A. B. C）の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	B
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	B
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	A
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	B
事業の効果	・周辺及び水路の整備ができ今後のほたる発生へのスタートができた。 ・作業や勉強会を通じ地域交流・景観美化ができた。		
評価すべき点	中丸子保育園児によるカワニ＋放流など地域交流が幅広くできた。		
課題	なかった。		

事業名	かあちゃん達が伝えるおらが村の（内村）の幸せ		
団体名	内村っ娘の会	代表者	長岡 和恵
事業の目的 及び概要	内村地区食文化の継承と地元食材の開発。地区内の世代間を越えた交流。地域の恵みを多くの人たちに実感していただく事、安全安心な食材普及、耕作地保存など、母ちゃん達が培った知恵を後世に伝え、自分たちも生き生きできる。		
事業内容	1. 食文化の継承、調理実習。2. 「お話しやしょ」の開催。3. 身近な荒廃地を耕し野草、薬草などを栽培。		
活動内容	毎月「お話しやしょ」計13回開催。そのほかストリートフェスティバルなど他の会との連携事業にも参加。		
	総事業費	114,820円	
	補助額	100,000円	
	原材料費	イベント材料	
	消耗品	イベント消耗品	
	謝金旅費	講師謝金・旅費	
	使用料	会場使用料	
	通信費	はがき切手	
	燃料費	燃料代	
	保険料	保険	
自己評価 （A. B. C）の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある	A
	妥当性	地域に必要とされている。	A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった	A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。	B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取り組みである。	A
事業の効果	「お話しやしょ」で西内・平井・各地区に行き交流し、地域の良さ、それぞれの地区が努力していること、他地区の人達との交流を望んでいることがわかった。また各地区高齢化傾向で、お互いの安否を気遣う上でもこの交流事業が効果的に働くのではないかと感じた。料理教室開催と「お話しやしょ」は地元の食材の発掘や食べ方など、地元の良さを次世代にも残してやりたいと強く感じる。 3温泉での開催で観光客との交流ができた。観光傾向は「その土地でしか味わえない味に触れること、人に触れること、体験すること」と旅に出るニーズがここ数年大きく変化している。野外でだれでも参加でき、手作り料理が味わえ、地元の人とも食の話題、歴史、見どころなど話題を多く提供できるニーズにあった事業。10月に観光業者の下見に向けて行った「お話しやしょ」の評価は高い。		
評価すべき点	他の女性団体からの交流申込みがあり、意見交換ができた。会員一人ひとりが積極的に事業に参加し、自分の出来る範囲で充分力を発揮した。稼げる体制づくりの糸口を見つけた。		
課題	地域が経済的に潤うような企画に発展させるよう工夫。		

事業名		独鈷山千本櫻地域おこし事業		
団体名		独鈷山千本櫻の会	代表者	滝沢 芳一
事業の目的 及び概要		独鈷山麓の御屋敷地籍の荒廃地に、櫻を植樹し、独鈷山の観光開発と宮沢部落及び内村地域の活力と温泉街の活性化を目指す。		
事業内容		櫻祭りの開催。櫻祭り用配線引込み。ベンチ作成。		
活動内容		独鈷山麓の御屋敷地籍に 11 年前から桜を植え始めた。都会のオーナーを募り、植樹、櫻祭りには、そのオーナー・家族も参加している。		
		総事業費	577,289 円	
		補助額	280,000 円	
		原材料費	ベンチ材料	
		消耗品	肥料	
		使用料	重機	
		通信費	案内郵便代	
		燃料代	機械燃料代	
		委託費	配線引込み	
自己評価 (A. B. C) の いずれか	公益性	限られた地域だけでなく多くの市民に恩恵がある		A
	妥当性	地域に必要とされている。		A
	効果・効率性	期待した以上の成果が上がった		A
	継続性	今後補助金がなくても継続していける。		B
	先進性・独創性	他にない先駆的な取組みである。		A
事業の効果		花の時期に大勢の観光客が見学に見え人々でにぎわうことが出来た。また、祭りの花見に来た温泉観光客がその場でオーナーになり、来年も参加したいという人も増えてきた。ここから地域が活性化され温泉街と連携し魅力ある地域となり、就労の場所もでき、子ども達も田舎を捨てずに残って地域を守ってくれる地域を目指している。		
評価すべき点		都会のオーナーは現在 170 名を越え、植樹・桜祭りには、そのオーナー家族も参加し一緒に活動することができ活性化している。 来客者に地元の旅館を紹介している。 特に会員となっていない地域住民方も、下草刈やお祭りに参加し、盛り上げてくれる。 この事業は既に 12 年以上も続いているが桜はまだ未熟で、50 年・100 年先が楽しみであり、子や孫に引き継いでもらいたい事業である。		
課題		桜も何種類か増え、そのほかに源平枝垂れ桃、つつじなどを植樹してあるが、まだ花の期間が短い。桜からひまわりまでの間の期間を花でいっぱいにはできないか工夫は必要。		